

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492200090	事業の開始年月日	平成18年10月1日	
		指定年月日	平成18年10月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ白寿庵湘南台			
所在地	(252-0805) 神奈川県藤沢市円行774番地の1			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
		宿泊定員	5名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成25年2月25日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月11日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の「人」の理解 ・理念の実現を目指して、私達ケアチームは、ご利用者が生き生きと笑顔で過ごせるよう一人一人の心に寄り添って、その方らしい生活の実現を目指している点です。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年3月14日	評価機関 評価決定日	平成25年4月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇日常のサービスに活かされている新たな理念 昨年7月、職員が話し合っって開設当初の理念を、「生き生き、笑顔、心に寄り添って、その方らしい生活の実現」をキーワードに変更し、職員はその実践に努めている。この結果、利用者の笑顔が多くなり、新しい理念が着実に浸透し始めている。 ◇家族との情報連絡の緊密化 職員は、「連絡帳」を主体に送迎時の機会をとらえて、家族との意思疎通を図り、また、利用者の写真や「通い・泊まり」の空き情報等を掲載した「ミモザ小規模通信」を毎月発行するなど、きめ細かく対応している。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇地域の行事への積極的な参加 自治会から地域の情報を得て、利用者は夏祭りや燈籠流し、地域の清掃等に参加をするほか、事業所にボランティアを招き、利用者はハーモニカ演奏やフラダンスなどを楽しんでいる。 ◇利用者の要望に配慮した食事の提供 調理専門の職員が、食材の調達から調理まで行うとともに、利用者の要望に配慮した食事や、医師から指示に応じた食事を提供している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ白寿庵湘南台
ユニット名	-

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	H24年5月のスタッフ会議にて、全スタッフの意見を取り入れ、事業所理念を作成する。 (7月作成済み)	・全職員で作り上げた新しい理念「利用者が生き生きと笑顔で過ごせるよう、一人一人の心に寄り添いその方らしい生活の実現を目指す」を居間に掲示して、管理者と職員は、日々実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。夏祭り等では、屋台を出し、地域の方々と共に参加して、ご利用者、職員共に地域の交流をしている。	・自治会に加入しており利用者は、夏祭りやドンド焼きなどに参加するとともに、事業所の夏祭りに地域の方々を招いて交流している。 ・ハーモニカ演奏、フラダンスのボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内にて介護教室を開き、認知症の人の理解や支援の方法を伝える予定		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、サービス内容を報告し、自治会長・ご家族代表・ご利用者代表の意見や要望を受け入れている。	・自治会長、民生委員、老人会会長、地域包括支援センター職員、利用者・家族の出席を得て、2か月ごとに開催している。 ・会議では事業所の現況報告の後、運営について利用者・家族からの要望や意見を聴き、サービスの改善に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	藤沢市では、小規模多機能型居宅介護サービス事業所と介護保険課との連絡会を定期的に実施しており、参加している。	・市の介護保険課とは、運営推進会議の議事録を届ける折、運営上の助言を得、相談に乗って貰っている。 ・行政が主催する連絡会や講演会・研修会には、その都度参加して情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のスタッフ会議で「30分研修」開催。職員全体が”身体拘束をしないケア”の主旨の理解を深め、身体拘束ゼロを目指している。	・毎月のスタッフ会議で「30分研修」を行う他、年1回全職員を対象に、身体拘束をしないケアの研修を行い実践に努めている。 ・高齢者用住宅やデイサービスと共用している玄関は、安全上施錠している。	・事業所入り口のドアは、見守りや声かけなど、施錠に頼らない方法で安全対策に取り組むことが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のスタッフ会議で「30分研修」開催。高齢者虐待防止法等の理解を深めたり、ご利用者の様子に注意を払い事業所内での虐待行為などをチェック点検している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は勉強会を開催。後見制度など必要なご利用者には個別に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を十分理解して頂けるように説明すると共に、十分な説明を実施しご納得ご理解できるように配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に対する受付担当窓口を明確にし、苦情時には速やかに適切に対応するようにし、必要があれば関係機関と共に調整し改善するように努めている。	・家族や利用者の意見や要望は、運営推進会議の他、連絡帳や送迎時の会話等を通じてにて把握し、スタッフ会議で検討して運営に反映すると共に、結果を利用者や家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員全員から個別に面談を実施し、運営に関する意見や提案を聞き反映させている。	・職員はスタッフ会議で、意見・要望を述べる機会があるほか、管理者との個別面談でも提案している。 ・職員の提案で開設以来の理念を改訂し、テーブル・イスなどの備品等についても、職員が話し合っ取替えた実績がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員と面談を実施し、意見や提案を聞き各自が向上心を持って働ける様、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場研修として「30分研修」を適宜実施したり、総合研修所の設置で全社的に職員全員がスキルアップ出来る体制と機会を作り研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	藤沢市小規模連絡会で市内の同業者との交流を持ち情報交換を行うと共に、個別に他事業者との交流の機会を持ち相互に研鑽して行きたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の訴えを時間をかけて傾聴し、不安感を払拭したり、要望を聞き取り安心して頂けるように配慮し、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の声に耳を傾け、困っていることをよく聞き、きちんと理解し、問題解決に向けて訴えを十分に聞く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が何を困っているのか、どうしたいのかを見極める事が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービス開始前の見学は、随時行い、また、体験利用を実施して、ゆっくりサービスに馴染めるように配慮する。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と疎遠になっていたケースで、本人の介護がきっかけになり、支え合う関係作りを目指す。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人にとって馴染みの深い場所、町、物、人等と出来るだけ関わりが続くようjに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燈籠流しや夏祭りなどの地域の行事に参加して、馴染みの人や物との関係が継続するよう支援している。 ・ 利用者は家族と一緒に、馴染みの喫茶店や美容室・レストランに出かけ、墓参りに行く方もいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士での馴染みの関係が出来ている。居眠りしている方に毛布やひざ掛けをかける場面を見ると嬉しく思う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は、新しいケアマネさんと連絡を取ったり、電話をしたりして、状況を伺って行きたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者一人一人の思いやりや意向を受け止め、その人らしい暮らしが出来るように努めている。	・利用開始時のアセスメント記録のほか、日常の会話、連絡帳、送迎時の家族の意見を参考にして、利用者の思いや意向を把握している。 ・歌や塗り絵、書道などのレクリエーションにも、利用者の要望を入れ、好みに合わせて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から話を聞き、ケアマネ中心に情報を収集して、全職員で共有するように努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の自宅での様子についてご家族と連絡を取り、また訪問して心身の状況の把握に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、または、情報交換をしてご本人にとって、よりよいケアの在り方を検討して行く。	・本人や家族の意向を基に、モニタリング結果や看護師・医師の助言を参考に、カンファレンスで意見を集約して、介護計画を作成している。 ・介護計画は、緊急時を除き通常短期を6か月、長期1年を目標に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職場全体で、記録について向上を目指し、ご利用者の言動を観察する力をつけるように努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通いサービスを中心にして、泊まり、訪問サービスが必要な人等のニーズに合わせた小規模ならではのサービスを提供する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に積極的に参加し、協力できるように支援して行きたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診には、出来るだけ同行し、連絡相談し、また、往診の医師とも相談連絡を取り、ご利用者の健康管理を実施している。	・殆どの利用者は、家族が同行して従来からのかかりつけ医で受診している。受診は結果は家族から報告を受け、個人ケア記録に記入して情報を共有している。 ・緊急時や歯科健診は、協力医療機関を受診してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とともに、必要時に連絡相談し、また、受診同行時にも相談連絡し、ご利用者の健康管理の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、病院の医師をはじめ相談員とも連絡を取り、情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医と連絡相談し、これからどうしていくか検討を重ね、職員全体で当事業所で出来る事は何かを話し合っている。	<ul style="list-style-type: none"> 急変時や重度化した場合は、マニュアルに基づき対応する方針であるが、これまで看取り実績はない。 利用者・家族と事業所間で話し合い、医師の助言を得て、利用者 に最善の方策を提案し対応している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事業所の全職員全体で年1回救命救急講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難路・避難場所については、スタッフ間で常に話し合い、訓練には地域の人の協力を得て行って行きたい。	<ul style="list-style-type: none"> 消防署の協力を得て夜間を想定した避難経路の確保、利用者の誘導、避難完了者の見守りなどの訓練を行っている。 非常食や飲料水は、品目・数量を適宜見直しているほか、カセットコンロなどを常備している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護や個人情報に対する取り扱いには、十分に配慮し、保管場所には、鍵をかけて保管している。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、年1回の「認知症ケア研修」や毎月のスタッフ会議での「30分研修」で、接遇について学習し実践に繋げている。 ・利用者のペースを基本に、プライバシーに配慮しながら、声かけを工夫して笑顔で接している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者が、その人らしい生活を自分のペースで過ごされる事を実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ希望に添えるように支援している。髪のカットは訪問理容を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるように専門の調理担当が毎日の食事を作っている。また、冬は鍋物等を提供するなど季節に合わせたイベントも実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・調理専門の職員が、利用者の嗜好調査も行うとともに、月1回のカンファレンスに出席して、利用者の摂食状況を把握し対応している。 ・季節毎の行事や誕生会では、利用者がケーキ作りに参加し、誕生日を祝っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の食事の摂取量や形態、好み等を把握し、食事の献立に反映させている。 日々の食事や水分の取り方を把握し調理担当と連携している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者個々に合わせた食後の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で、各自の排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄を心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した声かけや誘導に心がけ、トイレでの自立排泄に繋げている。 家庭との連続性を重視し、排泄状況を連絡帳に記載するほか、メモや電話で説明する場合もある。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介助が必要なご利用者には、排泄表を利用し、自立しているご利用者に対しては、それとなくお聞きして把握し、水分を多く取ってもらえるように配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個別の入浴を基本として、楽しんで頂けるように努めているが、シフト勤務の状況で日時や時間をある程度決める事もある。	<ul style="list-style-type: none"> 週2回の入浴を目安に、入浴時間、湯温などの個人の好みにあわせた入浴を支援している。 入浴を好まない利用者へは時間をずらしたり清拭で対応している。 脱衣室にカーテンをつけ、浴室との温度差・プライバシーに配慮している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に合わせた休息等の支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的な勉強会や日常業務の中で、最低限ご利用者が服薬している薬を理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に合わせて、生活歴や能力を生かした役割を持って日々の暮らしが出来るようにする。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に天気の良い日には、随時、外に出て、植木や花の水やりを手伝ってもらったり、散歩に出かけたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気や気温の状況を見て、散歩やテラスでの外気浴を励行している。 ・買物、受診の付き添いなど、家族との連携しながら支援している。 ・毎年、初詣、燈籠流しの見物、桜・紫陽花などの花見に出かけている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には在宅支援サービスであり、金銭的には、関わりを持っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な支援は、出来るだけ行う様になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かみのある家庭的な空間作りを提供して行くように努め、カレンダー作り等を通し、四季を感じてもらうように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日当たりの良い居間兼食堂は、床暖房を設置しており、他の共用スペースと共に、室温・湿度に基準を設け、快適な環境を確保している。 ・居間の壁面には、利用者と職員共作の壁飾りや行事の写真で季節感を出している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、椅子、ソファ、中庭等を活用し、ご利用者個々の希望に添えるように空間作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの位置や私物の持ち込み等、ご利用者の意向が十分反映させられるように努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・入り口に花柄の表札を付けて、利用者一人ひとりの居室をに分かり易いように明示している。 ・居室には、ベット・タンス・椅子・エアコン・カーテンや蒲団を常備し、利用者は蒲団や馴染みの物品を持ち込んで、居心地良く過ごせるよう工夫している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力をアセスメントし、一人一人に合わせた方法で出来る事を実施している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ミモザ白寿庵湘南台

作成日

平成25年4月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	小規模多機能事業所の入り口のどあーが施錠されている点。	・身体拘束をしないケアの実践。 ・小規模多機能事業所の入り口のドアを施錠しない。	入口のドアを施錠しないで、見守りや声掛け等の方法で安全対策に取り組む。	4月12日のスタッフ会議の翌日から実施。
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。